

令和5年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	<p>① 生徒の安全・安心な生活を保障するため、環境整備と今の社会情勢に応じた実践的教育の充実を図る。</p> <p>② ICT環境を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。</p> <p>③ 社会生活を送る上で、人としてもつべき規範意識を身に付けるとともに、多様な背景をもつ生徒に寄り添った指導・支援を行う。</p> <p>④ 個に応じた自立活動の充実を図るとともに、キャリア教育を推進する。</p> <p>⑤ 保護者や地域および関係機関との連携を強化し、社会参加に必要な資質・能力を育てる。</p> <p>⑥ 基本的な感染症防止対策を徹底する。</p> <p>⑦ 教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境を整えていく。</p>
----------	---

※以下の各項目（分掌）の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑦」に関連した内容を設定した。どれに関連しているかを下記の「重点目標」の末尾に番号で示した。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	経過報告と今後の課題
学校生活の充実 (高等部)	「連携と協働」によって指導の充実、課題の解決・改善を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任者会を通して、本宮校舎として押さえるべき指導のポイント（特に挨拶や社会規範）を明確にする。その上で、部で統一すべき内容と学年や実態に応じて指導する内容をその都度確認する。有効な指導実践について共有する。行事の成果や課題を明らかにし、その後の学校生活及び行事と関連付け、定着を図る。 ・部主事、校務主任が連携し、新規事業を推進させるとともに、周知・徹底を図る。 ・不登校や問題行動などの諸課題に対して、各主任、関係職員など複数で改善を図る。 	<p>年末に職員を対象とした意識調査を実施した。校則の変更や職員の入れ替わりによって内容の共通理解が不十分であることや、共有してもその後の指導方法について徹底できていないことが明らかになった。生徒指導部と連携し、解決を図る。</p> <p>ねらいや目的地など3年間を見通し、校外学習を計画できるように、過年度作成された「校外学習の活動内容分類表」を改訂し、部内の承認を受けた。</p> <p>生活力を高めるための指導力向上を目的とし、卒業生にアンケートを実施した。「卒業後、役に立ったと感じた学習内容はどれか」の問いに対し、「職業自立」に関連する内容は評価が高く、生活自立を目指す内容は、総じて評価が低かった。学習内容と生徒の関心や将来像とを結びつける働きかけや工夫が課題である。</p> <p>登下校時のマナーやスマートフォンの適切な使用方法について、課題解決に時間を要する生徒が一部いるものの、トラブルの頻度は低減した。</p> <p>関係機関と連携を図る一方で、学校が主体となってビジョンを描き、行動できる組織を目指す。</p>
	①③⑤⑦		
学習指導の充実 (教務部)	個に応じた学習指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用方法を検討する。 ・ICT環境を活用し、個に応じた学習指導について研究する。 	個別の教育支援計画等の作成や、日々の指導・支援に生かすことができるよう、研修や情報提供を行った。また、授業改善アンケートの活用方法を変更することで、授業担当者が生徒の困り事や達成感に気付くきっかけを作ることができた。ICTの活用は進んできているが、どのように評価に反映させることができるか今後検討する必要がある。
	②④		
	(総務部)	ICTの利活用のための環境整備、啓発を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・機器やネットワークの整備、管理を適切に行い、利活用の促進につなげる。 ・利活用のための情報提供、研修等を行う。
①③④			
特別支援教育の専門性の向上 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制、自立活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の目標について学年間で共通理解を図り、学年全体で指導にあたる。 ・年間指導計画の見直しを通して指導内容の精選をする。 	1年生を中心に年間指導計画を見直した結果、時間における指導において、目標を意識して指導にあたることができた。現職研修の時間に、生徒の課題と目標を確認し共通理解を図ることができた。今後はさらに具体的な場面を想定した支援方法を検討する事例検討会を重ね、指導に生かしていきたい。

生徒の安心安全を守る体制づくり (生徒指導部)	本校のいじめ防止対策について全職員が共通認識をもったうえで事案に対処する。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針の内容等について校内で研修を行い、周知する。 生徒の心身の変化をこまめに把握し、相談の機会を設け、悩みの早期発見に努める。 外部講師等を活用し、SNSの危険性や正しい使用方法について学ぶ機会を設ける。 	<p>具体的ないじめ事案はなかったが、友人との人間関係の中でトラブルが数件あった。担任等が生徒の様子の変化を感じ取ったり、該当生徒から相談があったりしたことで、早めの対応につながった。大きな問題に発展する前に気づき、未然防止の意識が高まっていると感じる。また、問題が起きた際には速やかに管理職や生徒指導部へ報告されたことで、組織として対応することができた。今後も外部講師による講習会や校内研修等を実施することで、生徒及び職員に対して啓発を行っていく必要がある。</p>
	①③		
	生徒心得について、よく理解し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝礼や全校集会等でルールやマナーについて指導をする。 意識調査や学習プリントを通して、実態や習熟度を把握し定着が図れるように継続して指導する。 外部講師による人権講演会や性についての講話等を実施する。 	<p>校則を改訂して1年目ということで数回に渡り全生徒に対して改訂した点や注意する点について指導した。1年生については、たびたび登下校中にルール違反やマナー違反があったため生徒指導部や学年職員がその都度登下校指導や乗車指導を行うなどの対応をとった。一部の生徒において規範意識の定着が不十分であることを感じたため、意識調査やプリント学習は継続する。生徒の実態からルールの定着には時間を要するため、長期的な視野で継続した指導を行っていききたい。</p>
健康の維持増進 (保健体育部)	健康に関する教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や委員会活動と連携しながら、生徒一人一人が自分の健康に関心をもち、主体的に体調管理に取り組むことができるようにする。 感染症対策の周知・徹底及び定期的な確認を行う。 	<p>生徒に2回行った「生活や健康に関するアンケート」について、第1回と第2回と比べて運動や睡眠に関わる部分に関しては改善が見られたが、歯の健康や食事に関する部分では変化は見られなかった。</p> <p>歯の健康や食事に関することは通院や調理など、家庭の事情に関わることが多いと考え、生徒向けの健康講話に保護者が参加しやすい工夫や、参加できずとも関心をもっていただける情報提供の機会を増やしていく。</p>
	①⑥		
進路指導の充実 (進路指導部)	キャリア教育推進と生徒の社会参加に必要な資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学や職員業務体験を行い、企業への障害者理解を進めるとともに、職員の進路意識及び指導力の向上を図る。 メール、電話、訪問など、適切な手段で丁寧に情報交換を行い、進路説明会、ホームページや進路通信などを通して必要な進路情報を生徒や保護者に伝える。 	<p>企業における職員業務体験を実施し、2年生の現場実習先の確保や3年生の就労につながられた。</p> <p>保護者には、企業の雇用状況や求める人材像、進路の流れなど進路選択の指針、採用の流れや卒業後の支援の周知を図った。また、進路行事の実施報告に加え、企業情報や福祉関係など、生徒や保護者が知りたい情報を進路だよりにして発行した。</p> <p>引き続き、生徒や保護者に寄り添った、きめ細かな指導を心がけながら、進路選択に有益な情報を適切な時期に提供していききたい。</p>
	④⑤		
健全な職場環境づくり (教頭)	働きがいを感じる職場環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善等の参考になる好事例を紹介し、業務内容の可視化をする。 ベテラン教員が経験の浅い教員に積極的に声をかけたり、ときには一緒に業務に取り組んだりするように促す。 互いの理解が深まるような活動に取り組む。繁忙期を除き、退勤時間を意識した勤務を徹底する。 	<p>各分掌内、学年会で業務内容の可視化や情報共有の意識が高まった。また、声をかけ合い環境整備をしたり、長期休業中にはリフレッシュ活動に取り組んだりして教職員同士が協働する雰囲気や醸成された。アンケートの結果から6割の教職員が積極的に対話ができたと回答したが、生徒の成長を実感するまでには至らなかった。引き続き、教職員の対話を大切にし、生徒の成長を分かち合うことでやりがいを感じられるような組織づくりに取り組んでいきたい。</p>
	⑦		
総合評価		<p>各項目で一定の評価、改善が見られたが、生活自立に向けた指導や規範意識の向上については課題を残すこととなった。引き続き、個に応じた指導、自立活動の指導に力を入れるとともに、情報共有や指導方法の検討を重ね予防的な指導をする。</p>	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活自立に向けた指導の充実 ・規範意識の向上を目指した取組
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活自立に向けた指導の充実（部主事） <p>生活する力を付けるための教科学習が役立っているのか卒業生にアンケートを実施した。卒業生が「学んでよかった」と感じていることの多くは、職業自立に関する内容であった。教員も、無自覚に「職業自立＞生活自立」と、優先順位をつけているのではないかとと思われるアンケート結果であったため、学ぶ意義やねらいを生徒に示し、生徒の関心と学習内容を結びつける工夫が必要であることが分かった。</p> <p>「生活自立」の定義については、各校務主任と意見交換を重ねながら、現在の本宮校舎が目指す「生活自立」について三つの柱にまとめた。①社会人として、自身の生活について自己決定をするための下支えとなる知識や考え方を身に付ける。②自分らしい生活を実現する上で求められる自己管理能力を身に付ける。③様々な経験を重ね、視野を広げ、豊かな人格を形成する。以上のことを次年度以降、共通理解した上で、授業改善や生徒指導に生かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上を目指した取組（生徒指導部） <p>改訂した本宮校舎「生徒心得」について生徒、保護者に説明した。また、担任、学年主任、生徒指導部と連携し、日々の生徒指導についての情報交換や情報を共有して指導に当たった。生徒から「生徒心得」の内容について質問してくることが増え、「決まり」に対する意識の変容が少しずつ見られるようになった。決まりを守ろうとする生徒が増える一方で、決まりを理解しつつも同じような内容で注意を受ける生徒も見られた。繰り返されるトラブルや、エスカレートしていく問題行動に対しては、決まりを視覚化したり、模範を示したり、必要に応じて家庭と連携したりして、決まりが守られるように指導を行った。今後は、生徒が自己指導能力を発揮するためにも、決まりを守ることの意義や効果について考えさせる機会を設け、主体的に行動できるように、必要に応じて個別指導を行いながら全体への指導を充実させていかなければならない。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活自立・職業自立に向けた授業改善 ・規範意識の向上 ・公共交通機関におけるマナー指導 ・ICT機器の効果的な活用 ・教職員のやりがいを大切にされた組織運営
<p>その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）</p>	<p>【企業の方より】</p> <p>授業見学で生徒自身が活動の説明ができていたのが素晴らしい。今後も人前に入る経験を積んでいけるとよい。公私でいうと、公はできるが私の場面では好きにしたいという気持ちはだれにでもあると思うが、私がしっかりとしていないと公にはつながらないということをしつかりと教えてほしい。経営者の間では、「地域未来創造企業」というスローガンを掲げている。世の中の変化に対応するのではなく、変化を自分たちで作っていくものだという考えである。学校においても「地域未来創造学校」という意識をもって、どのように変化していくか自分たちで考えていく必要がある。</p> <p>【社会福祉法人の方より】</p> <p>職業自立に目を向けやすいが基本は生活自立である。保護者との連携も言葉だけではなく、具体的に進めていくことが重要である。「なぜ働くのか」という基本的なところをもう少し学んでほしい。社会に出るための学びは、本宮校舎の3年間では足りないと思う。中学校からの指導が必要であり、中学校の特別支援学級と連携を重視することで改善していけるとよい。</p> <p>スマホをきっかけとした金銭トラブルが多い。講習会をやるのが重要なのではなく、それを生活にどう生かすのかという視点で指導をして、起こりうるトラブルを想定して具体的に学ぶことが重要である。社会に出ると責任能力は問われるため、スマートフォンを制する者は障害者雇用を制する。</p> <p>【豊川商工会の方より】</p> <p>他校（高校）の状況を聞くと、卒業生の離職率がとても高いが、離職後の支援ができていないのが現状のようである。本宮校舎では、卒業後3年間の定着支援を行っているということだが、その先もぜひ、拠り所として支援をしてほしい。社会に出てからトラブルに巻き込まれることはある。困ったときに相談する先や、どんな支援があるのか、学校にいる間に学んでほしい。</p> <p>情熱と根気が必要な職場である。ノーマライゼーションという言葉も一般的になっているが、宝陵高校とだけではなく地域社会とも積極的に交流を図ってほしいと願っている。</p>

	<p>【一宮商工会の方より】 工業の授業で製作している商品については、需要のあるものを作るために、最後の仕上げのところで完成度の高い商品にするためにしっかりと指導ができるとよい。 障害者の自立について、保護者が自立について学びを深める機会があるとよい。 安全な社会生活を営む力をつけるために、引き続き交通安全（自転車利用）について指導をしてほしい。</p> <p>【大木町内会長より】 自分らしい生活を実現する上で、求められる自己管理能力を身に付けるための学びの工夫や機会づくりがしっかりとしてきていると感じる。様々なことを具体的に学び経験することによって自分のものにしていく過程が大切だと感じた。 多感な時期だからこそのいろいろな事柄に興味をもつことを積極的にとらえて、リスクから遠ざけることばかり考えるのではなく、リスクへの対応策を学ぶために外部講師を招いているのはよいことである。</p> <p>【PTA会長より】 授業参観をして、3年間の我が子の成長を感じた。目的をもった授業や体験があって今があると感じる。社会人になってもすぐに手を離すのではなく、親も寄り添い勉強して、学校で学んだことを活かしていけるようにしたい。生徒が工業で作った製品を販売する機会を作っていただき感謝している。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成 企業関係者、社会福祉法人関係者、豊川商工会、一宮商工会、大木町内会、PTA会長 ・評価時期 2月下旬

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 生徒・保護者に寄り添い、個に応じた指導の充実を図る。
- イ 地域資源を生かした学習活動の充実と実施方法を工夫する。
- ウ 携帯電話の適切な使用及び、インターネットやSNSなどに伴うトラブル予防の指導を充実させる。
- エ 安全・安心な環境を整備するとともに危険予知ができる力を養う。